

共に未来を育てるために

進路指導の現場から

第2回

進路指導の基本は 不本意入学をなくすこと

——進路指導の方針について教えてくださいいただけますか。
本校には1学年280人の生徒が在籍しています。近年は80〜90人程度の生徒が現役で国公立大に合格しており、そのうち70%が東北地方の国公立大に進学しています。また、私立大には140人程

度が進学しますが、国公立大と同様に東北地方の私立大に進学する生徒が多く、首都圏の私立大に進学するのは10%ほどです。

進路指導の基本方針は「不本意入学者を極力出さないこと」です。貴重な時間とお金を使って進学するわけですから、何事にも積極的な姿勢で大学生活を過ごしてほしいからです。そのため、「将来を見通した学び」を選択するための

サポートを第一に考えています。合格可能性を考慮したアドバイスはその次の段階です。

生徒は第1志望の大学をめざして勉強に励みますが、全員がその大学に進学できるわけではありません。高校の段階で、大学での学び、卒業後の将来展望をしっかりイメージしておけば、仮に第2、第3志望の大学に進学したとしても、前向きな大学生活を送れるのではないのでしょうか。

積極的な大学生活を送れるよう 志望理由を明確にさせています



宮城県仙台南高校 進路指導部長
佐々木 良彦

ささきよしひこ ●教職歴24年。専門教科は数学。同校に赴任して13年目。2016年より現職。宮城県高等学校進路指導研究会の全県常任幹事を務める。「教えることより気づかせること」を大切に、指導にあたる。

——生徒に大学での学びをイメージさせるための具体的な取り組みについて教えてください。
本校ではキャリア教育に関する取り組みを、総合的な学習の時間(各学年35時間)に組み込んでいます。1、2年次はキャリアセミナーの受講、オープンキャンパスへの参加、大学教員による講義ライブイベントへの参加などを通して、将来の職業や大学での学びについて見識を広げます。また、それだけではなく、興味のある社会問題についての課題研究にも取り組みます。

3年次でも「なぜ看護師の離職率が高いのか」などテーマを自ら設定し、引き続き課題研究に取り組みます。これらの活動を通して自分なりの大学や職業のイメージを十分に醸成したうえで、夏休みに第1志望大の志望理由書を書きます。この志望理由書は教員が添削を加えながら、7月末までに15時間かけて完成させます。

——夏休みは「受験の天王山」とも言われます。時間をかけて志望理由書を書かせるのは生徒の負担になるのでは？
このタイミングで自分のやりた

105時間を勉強に費やすことよりも、将来をじっくり考える時間に充てることのほうが価値があるのではないのでしょうか。仮にこの時間を勉強に使えず第1志望の大学に合格できなかったとしても、大学で学ぶ目的を明確にしたうえで第2志望の大学で学んだほうが、人生にとって有益だと考えます。大学側から見ても進学目的がはっきりした学生が入学するほうが望ましいのではないのでしょうか。

地方のための人材育成を 首都圏の大学に期待

——生徒の相談を受ける際、心にかけていることはありますか。
提案型の進路相談を心がけています。「こうすべき」

「こうしたほうがよい」ではなく、いろいろな選択肢を挙げて、生徒自身が判断するように働きかけています。自ら主体的に将来を選び、学びに向かってほしいからです。

——近年、高校生の進路選択に関する意識に変化は感じますか。
10年前と比べ、学力に変化はありませんが、気質は



明らかに変わってきています。「何らかの形で社会貢献がしたい」と考える生徒が増えています。また、経済的な問題から首都圏の私立大に進学できる生徒が減りました。奨学金説明会の参加者も増えて

——首都圏に進学を希望する生徒に対しては、どのようなアドバイスをしていますか。
保護者から経済的な支援が受け

られるのであれば、首都圏の私立大は勧めたいですね。いろいろな人との出会いも期待できますし、情報量も多く、様々な分野の「本物」に触れられます。都会で大学生活を送ることによって、視野が広がることは間違いありません。

——首都圏の大学に伝えたいメッセージはありますか。
18歳人口が減少していますから、地方から生徒を集めたいとい

う事情も理解できます。ただ、地方から入学してきた学生が最終的に地元に戻り、活躍するビジョンをお持ちでしょうか。
昨今、地方創生が叫ばれていますが、スローガンで終わらせてはいけません。首都圏の大学は「グローバルな視点を備えた優秀な人材」の育成だけでなく、地方を活性化できる人材を育成して、Uターンを促すことも考えていただきたいと思います。
地方創生を担うのは地方の大学だけではありません。産学連携や地域社会との連携が盛んですが、首都圏の大学と地方との連携は少ないように感じます。首都圏も地方創生を考える視点を持つていただき、互いに協力して未来を担う人材を育成できればと思います。

まとめ

大学で学ぶ意義を
明確化できれば
不本意入学は減る
首都圏の大学にも
地方創生の視点も
持ってほしい

高校訪問 ワンポイントアドバイス

生徒の進学傾向を 把握したうえでの訪問を

本校の進学実績など、基本的な情報を調べないで訪問にいらっしやるケースもありましたので、下調べはきちんとしてほしいと思います。その高校の進学傾向を把握していなければ、お互い有益な情報提供につながりません。目的をはっきりさせたうえでアポイントを取っていただければ、夏休み中などでも基本的に教員は対応できます。